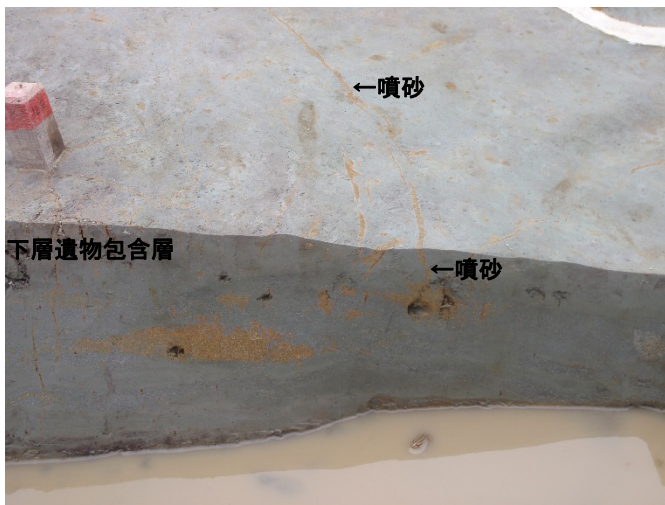


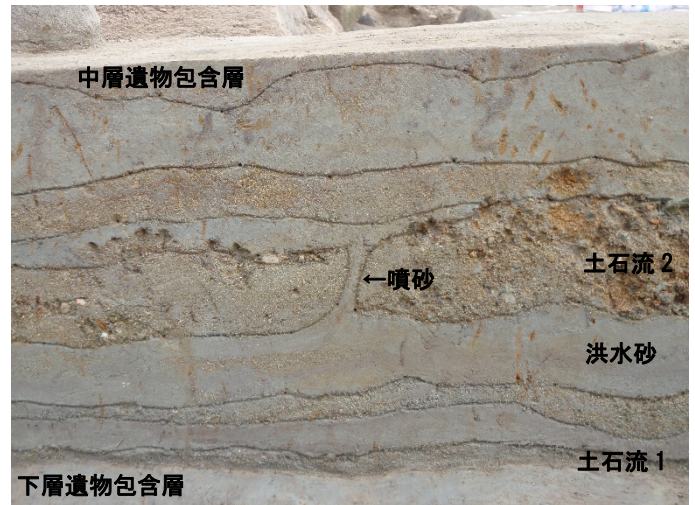
3 見つかった地震痕跡

古墳時代中期～後期ころ（約 1500～1600 年前）に発生したと考えられる液状化現象を発見しました。しかも、1 度ではなく、最大で 3 度発生した可能性があります。液状化現象を起こす規模の地震が複数回、100 年前後という短期間に集中的に発生していることが明らかとなりました。遺跡周辺では「六日町盆地西縁断層帯」が存在することが知られています。その活動履歴は不明でしたが、これらの液状化跡が六日町盆地西縁断層帯の活動に伴う液状化現象である可能性があります。いずれにしても、六日町断層帯の動態を知る上で、重要な情報となると考えられます。

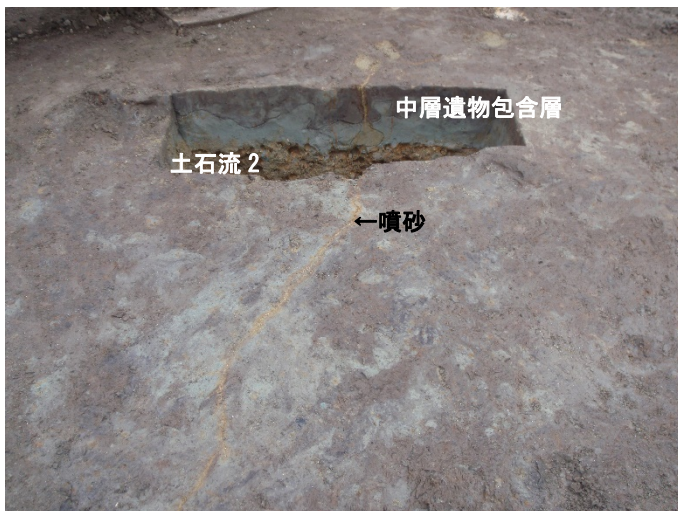
また、時期を同じくして発生した土石流は、地震と無関係ではないかもしれません。地震によって上流部の斜面が崩落して川をせき止め、圧力に耐え切れなくなった時に、一気に土石流として下流に流出した可能性があります。今後、扇状地の成り立ちを含め、慎重に検討していく必要があります。



1 度目の地震痕跡（筋状に見える橙色の線が噴砂です。）



2 度目の地震痕跡



3 度目の地震痕跡（筋状に見える橙色の線が噴砂です。）

《解説》

- ・ 1 度目は、下層の遺物包含層を貫いており、土石流 1 を貫いていません。噴砂の噴出面が、土石流 1 に流されてしまった可能性があります。
- ・ 2 度目は、土石流 1 上位の洪水砂が、土石流 2 を貫き、中層遺物包含層下位で噴出しています。
- ・ 3 度目は、土石流 2 を給源とし、中層遺物包含層を貫いています。
- ・ 以上のような層位関係から、少なくとも複数回の地震が発生したことが明らかです。

4 出土遺物

平成 21 年度調査区からは、古墳時代中期（5 世紀ころ）の土師器（低温素焼きの土器）が多量に出土しました。土師器には煮炊きに用いられた甕のほか、液体などを貯蔵する壺、食器の杯のほか、祭祀（マツリ）にも用いられる高杯や小型壺なども多数出土しています。これらは、川辺で行われることがあったとされる祭祀（マツリ）に伴う遺物と考えられます。4 月からバラバラの状態出土した破片をひとつずつ組み合わせていった結果、現在、150 個体以上の土器を復元できました。また、当時、大阪府南部（和泉陶邑古窯跡群：堺市周辺）や東海